

個別事業費	10,217 千円
交付金額	7,662 千円

地域の実情と課題

県調査では、「悩みがあっても相談しなかった、できなかった」と回答した女性は、その理由として「相談する勇気がなかった」「対応が期待できない」などの理由を挙げている。相談機関にたどり着けない女性や支援を受けられることに気づかない女性があり、必要な支援に結びつけるための取組を進める必要がある。

事業の特徴

- ①オンライン相談業務：ピアサポーターによるSNSやWEB会議サービスを利用した相談業務。
- ②アウトリーチ支援業務：訪問支援を必要とする人へのアウトリーチ支援。
- ③居場所づくり業務：地域の集会所等においてピアサポーターによる相談スペースを設置。
- ④ピアサポーター養成業務：上記業務を行うピアサポーターの養成。
- ⑤生理用品の提供等：「生理の貧困」状況にある人へ社会福祉協議会・学校・子ども食堂等を通じた生理用品の提供を通して相談事業の実施や、相談窓口の案内。

事業の効果

- ・SNSの活用や託児スペースを利用することで、幅広い年代の人からの相談に対応することができた。
- ・研修を5回実施し、ピアサポーター51名を養成した。
- ・生理用品の提供をきっかけとして各種相談窓口へと繋がった。
- ・居場所づくり業務には目標300人であったところ、居場所づくりの内容を工夫することにより385人の参加があった。

目的・目標

- ・孤独・孤立で不安を抱える女性に対して、相談支援の一層の充実を図る。
- ・生理用品の提供及び提供時に相談の実施や相談窓口の案内等を行うことにより女性の支援に繋げる。

連携団体

市町村、徳島県社会福祉協議会、県内大学等

今後の課題

支援を必要とする人がより多く相談機関に繋がることができるよう事業の周知を効果的に行う。

事業の概要

オンライン相談

SNS(公式LINE・X(旧twitter)・Instagram・Facebook)を活用したオンラインの発信で必要な方への情報提供を行いました。zoomを活用したオンライン相談(女性限定)を実施しました。

アウトリーチ支援

支援を必要とする人にピアサポーター(女性)が訪問支援を行い関係機関への同行などスムーズに支援に繋がりました。

居場所づくり

「相談」という場ではなく日常の延長線上での場でささいな不安や困りごとを誰かに聞いてもらえる場を提供しました。

ピアサポーター 養成講座

県民有志を対象に専門講師を招いて養成講座を開催してWEB相談や支援活動を行う人材を育成しました。

生理用品の提供

「生理の貧困」の状況にある方に生理用品を提供し、相談の実施や相談窓口の案内などの支援に繋がりました。